

平成24年度茨城県病院事業経営改善検証委員会（第1回）意見概要

日時：平成24年8月6日（月） 16:00～17:40

場所：県庁901会議室

【メンバー】

城西大学教授（地域医療・行政学）	伊関 友伸
日製日立総合病院長	奥村 稔
東京医科歯科大学大学院教授（医療経済学）	川渕 孝一
茨城県医師会長	齋藤 浩（委員長）
公認会計士	清水 至
茨城県総合健診協会長（県医療改革担当顧問）	山口 巖

【主な評価・意見】

〔評価できる点〕

- 一番評価すべき点は、医師数が増えたこと。それでも中央病院の108名やこども病院の39名は、高度な専門医療を展開するには決して多くはないので、さらに充実させていくことが重要で、必要な投資は積極的に行っていく必要がある。
- 東京や全国から医療人材を招聘するために必要な投資をすることが必要で、そのための繰入れというのは積極的にやるべきだと思う。
- 医師会からの印象だと、県立3病院はこの2年間大きく様変わりしている。内容・質・患者に対する心構え・積極性が良い方に大きく変化している。
- 経営的にも非常に改善されていて、改革初期から中期の効果があがってきた。

〔課題〕

- 必要な人材を集めるための投資について、県内の人を対象とするのではなく、県外から来るレベルまで上げないと結局は来てもらえないので、そこまで上げることを意識した方が良い。
- 収入増によって内部留保が膨らんでいくのであれば、人的あるいは設備的なものに再投資できるような環境を整備していくことが必要だと思う。
- 世の中では、情報の管理が問題になっている。情報が流出すると企業では何十億という損害が出る。医療の世界でも、患者情報などが流出すると大変な問題になるので、情報のリスクコントロールをどうするかというのは、将来の安定的な経営に向けて是非一度考えるべきだと思う。